

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立久里小学校
1 前年度 評価結果の概要	・全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、授業改善に努め、学力向上を図りたい。 ・児童の自己肯定感を高める取組やよりよい人間関係作りの取組の継続、地域と連携した体験活動の充実に努めていきたい。 ・運動・スポーツの楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 ・年間を通して時間外在校等時間の上限を遵守する雰囲気醸成されつつある。今後も業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していきたい。
2 学校教育目標	「豊かな心をもち、夢の実現に向かって、自律的に活動する久里の子の育成」 ～元気・笑顔・思いやりがあふれる 学校～
3 本年度の重点目標	①学校全体で取り組むポジティブ行動支援の推進 ②特別支援教育の充実推進 ③「児童と向き合う時間を生み出す」ための効果的な働き方 ④保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりの推進

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。全職員による共通理解と共通実践	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童70%以上	・授業の中に意図的に話し合う場面を取り入れる。 ・学びを深めたり広げたりするためにタブレットを効果的に活用する。 ・授業で使った学習計画やワークシートをサーバーに保管し、だれでも利用可能な状態にする。				・		・	・学力向上対策コーディネーター	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は、豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と回答した保護者80%以上 ○「家庭で、道徳の授業で使った資料を読んだり、お子さんと話したりしている」と回答した保護者80%以上	・地域と連携した体験活動や学校行事等を行う。 ・平和集会後、平和について感想を書かせ、掲示する。 ・授業参観での道徳授業を年1回以上実施する。				・		・	人権・同和教育担当 道徳教育推進教師 特活部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	・日常の児童観察、Q-Uや毎月の「なかよしアンケート」を実施し、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については、職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。				・		・	生活部	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・年間を通して全職員で児童の頑張りを認める声掛けを行う。 ・仲間づくり、縦割り班での異学年交流、全校での集会活動を等してよりよい人間関係の構築を図る。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。				・		・	特活部	
	○学校全体で取り組むポジティブ行動支援を等して居心地のいい学校・学級づくりを目指す教育活動。	○「学校・学級は居心地がいいと思う。」と回答している児童80%以上。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた教師・児童が「きらきらカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。				・		・	特活部	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①休み時間以外遊びをする児童の割合70%以上。 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・持久走大会、体力テスト、運動会等の体育的行事において、それぞれの児童がめあてをもって運動に取り組めるように具体的な運動方法を先生方に共有する。 ・日常の学校生活での外遊び時間を確保するために、昼休み時間の延長や朝礼前の時間に外遊びができるように見直す。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。				・		・	保体部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数を14日以上にする	・定時退勤日の時間厳守。(金曜日) ・特定の職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・会議の議題案を年度当初に示し、職員の意識を高める。				・		・	管理職	
	○教職員の働き方改革の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の縮減に取り組む、効率化が進んだという職員を70%以上にする。	・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。				・		・	管理職	
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備。	○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○家庭や療育施設などと連携し、2学期までに教育支援計画の願いや手立てを考え、必要な支援につなげていく。	・各教室のまなびやすい環境作りを進める。特に特別支援学級においては、仕切り板の活用など個に応じた場の設定を行う。 ・個別の支援計画もとに、必要な支援につなげていく。				・		・	特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	○地域との連携による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童の見守り。	○授業参観、学校便り、学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。)	・学校だよりやHP、はなまるメールにより情報発信を行うとともに、地域との交流や地域行事等への協力を行う。				・		・	教頭・教務主任	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------